こんにちは！事務局です

《理事会報告》

第4回理事会／令和元年11月9日(土)

Ⅰ 決議事項

1. 滋賀県看護協会定款細則等の改正について
2. 日本看護協会代議員及び予備代議員の選出に関する内規（案）について

Ⅱ 協議事項

1. 令和2（2020）年度 定款事業 中間報告
2. 令和元（2019）年度 職能委員会 中間報告
3. 令和元（2019）年度 中間監査報告
4. 令和2（2020）年度 重点事業計画（案）の方向性について
5. 看護の日およびナーシングナウキャンペーンの推進について

Ⅲ 報告事項

1. 地区別法人会員会の開催状況について
2. 近畿地区職能委員長会議について
3. ゆりかごタクシー国土交通大臣表彰受賞報告会及び祝賀会について
4. 日本看護協会災害支援ナース派遣訓練について
5. 業務執行理事活動報告について

《選挙管理委員会からのお知らせ》

公益社団法人滋賀県看護協会役員・委員等の立候補者の受付について

令和2年6月20日(土) 栗東芸術文化会館さきらにて開催予定の滋賀県看護協会通常総会において、滋賀県看護協会役員および推薦委員ならびに令和3年度日本看護協会通常総会に出席する代議員および予備代議員の選出を行うことに伴い、下記のとおり立候補を受け付けます。

なお、役員等は本会の会員であり、本会の目的を理解し、組織強化、発展のために定められた会議に出席し、積極的に責務を遂行することが求められます。

1. 立候補の方法

立候補される方は、正会員5名以上の推薦を受けて、届出用紙に必要事項を記入の上、看護協会事務局へ提出してください。届出用紙は、事務局にあります。（ホームページからもダウンロードできます。「滋賀県看護協会」⇒「協会の活動」⇒「組織・役員」⇒「役員・委員等の立候補の受付」）

2. 立候補者の受付期間

令和2年2月1日～令和2年2月14日必着

3. 立候補届の送付先

〒525-0032 草津市大路二丁目11番51号
公益社団法人滋賀県看護協会事務局 選挙管理委員会宛て

4. 令和2年度選出する役員および改選数

会長1名 / 副会長（保健師）1名 / 常務理事1名 / 保健師職能理事1名 / 看護師職能Ⅱ理事1名 / 第1地区理事1名 / 第3地区理事1名 / 第5地区理事1名 / 第7地区理事1名 / 准看護師理事1名 / 監事（看護職）1名 / 監事（看護職以外）1名 / 推薦委員7名 / 令和3年度日本看護協会総会代議員9名・予備代議員9名

会員の声

▶仕事をさがしている時、ナースセンターからの情報を参考にマザージョブステーションを利用していました。託児もあり、ゆっくりと仕事を探せ、カウセリングを受けられたことも今の自分を見つめ直す良いきっかけになりました。（草津市 K.Sさん）

▶いろんな施設や病院で働く看護師の頑張りや、看護の動向を知ることができ、学びになります。他病院の方と情報交換や共有する機会は、決して多くありませんが、看護師が心をひとつにし、これからの医療を支えて行けたらいいなと思っています。限りない看護の可能性を追い求めて、これからもみんなで頑張っていきましょう。（大津市 M.Iさん）

編集後記

新年明けましておめでとうございます。本年も広報委員一同、会員の皆様に充実した内容の情報を提供できるように努力してまいります。より一層のご愛読をよろしくお願いします。

広報委員会よりお知らせ

私たち広報委員会は、滋賀県内の看護職の皆さんの活躍や看護の現状を広報紙「NurseLake」や看護協会ホームページでお伝えしています。乞うご期待ください。

プレゼント！

投稿大募集!!

「表紙の写真」「会員の声（ご意見・ご感想）」に投稿をお待ちしています。とりあげて欲しい内容でもけっこうです。広報委員が取材に行きます。ふるってご応募ください。詳しくはホームページ「委員会からのお知らせ」をクリック！（次回発刊は4月上旬予定です）

《プレゼント当選者発表》

投稿していただく方の中から、厳正なる抽選の上5名の方に決定しました。
草津市K.Sさん、守山市S.Yさん、H.Tさん、大津市N.Sさん、高島市I.Hさんです。おめでとうございます。

広報紙「ナースレーク」

Nurse Lake

Vol.145
2020年1月

公益社団法人 滋賀県看護協会

表紙写真：琵琶湖大橋付近（撮影：大津市 T.Uさん）

CONTENTS

会長新年挨拶／Nursing nowキャンペーン……2
〈研修報告〉地域包括ケア時代の継続看護Ⅰ……3
3年目看護職員交流会を開催……3
〈一番星見つけた！〉まちの保健室……4～5
第24回滋賀県看護学会報告……6～7
Voice ～これからの看護職に期待すること～……7
〈活動報告〉災害看護推進委員会・助産師職能委員会……8
医療安全通信／訪問看護支援センターだより……9
ナースセンターだより／はたさぼ通信……10～11
こんにちは！事務局です／会員の声／編集後記……12

発 行 所●公益社団法人 滋賀県看護協会
発行責任者●会長 廣原惠子
〒525-0032 滋賀県草津市大路二丁目11番51号
TEL.077-564-6468 FAX.077-562-8998
http://shiga-kango.jp/
モバイルサイト
滋賀県看護協会 検索

Nursing now 看護の力で健康な社会を！

滋賀県看護協会会員数（令和元年12月1日現在）

保健師/	339人	助産師/	270人	合計 8,965人
看護師/	8,140人	准看護師/	216人	

新春に寄せて

三方良し精神で“看護の力で滋賀を元気に”

滋賀県看護協会　会長　廣原　恵子

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。
旧年中は、滋賀県看護協会事業の運営に、ご理解とご支援を賜り深く感謝申し上げます。

看護が躍進・繁栄の年に

2020年の干支は、「子年」です。子年は新しい運気のサイクルの始まりで、「子年は繁栄」という格言があります。東京オリンピック・パラリンピックの年でもあり、滋賀県とも関係のある明智光秀の大河ドラマ「麒麟が来る」が始まります。また、看護界においても、ナイチンゲール生誕200年を記念して世界の看護職がNursing Nowキャンペーン「看護の力で健康な社会を」の活動を強化し、日本では「看護の日制定30周年」を迎え「看護が躍進する年」となります。あらゆる場で看護の力を更に発揮していきましょう。記念事業も計画していますのでご協力をよろしくお願いいたします。

滋賀県看護協会「看護の将来ビジョン」のもと、事業の推進

昨年度に、日本看護協会の「看護の将来ビジョン」に基づき、滋賀県看護協会の「看護の将来ビジョン」を公表致しました。そのビジョンのもと、あらゆる場で患者や住民を主体に考え活躍する看護職の熱い思いを結集し、看護職が一丸となって事業を推進していきたいと思います。

皆様の日々の看護実践で、自分自身はもちろん、住民、患者さんや利用者さん、同僚の笑顔が増え、健康で幸多き年でありますように!!
今年もどうぞよろしくお願いいたします。

Nursing now キャンペーン

Nursing now
看護の力で健康な社会を！

ナイチンゲール生誕200年となる2020年に向け、看護職が持つ可能性を最大限に発揮し、看護職が健康課題への取組みの中心に立ち、人々の健康向上に貢献するために行動する世界的なキャンペーンです。英国の議員連盟が活動をスタートさせ、世界保健機関（WHO）及び国際看護師協会（ICN）の賛同の下、英国のチャリティ団体であるバーデット看護信託が事務局となり、世界的に広まっています。

世界では、保健医療制度や人々のニーズが大きく変化しており、看護職はこの変化への対応が求められています。看護職が変化に対応し、一層活躍するには、看護職が適切に評価され、保健医療政策に影響を及ぼすことが重要であり、そのための様々な条件や環境を整える必要があります。

Nursing Nowキャンペーンを国内で展開することで、看護職がもつ可能性を最大限に活用し、社会に求められる役割を果たせるよう、本キャンペーンへのご賛同、ご協力とご支援をお願いいたします。

《Nursing Now》
https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/nursing_now/

【分類Ⅰ】 ラダーと連動した継続教育

地域包括ケア時代の継続看護Ⅰ

在宅療養を見据えた退院支援とは
レベルⅡ・Ⅲ

●講師：中村 恭子 先生（滋賀県健康医療福祉部医療福祉推進課）／安井 明子 先生（滋賀県済生会訪問看護ステーション統括所長）
●日時：2019年10月29日㈫ 9:20～16:30　●参加：105名（30施設）

研修目標

- ◆地域包括ケアシステム構築の目的と意義を理解できる。
- ◆地域包括ケアシステムにおいて継続看護が果たす役割と意義を理解することができる。
- ◆在宅療養を見据えたケアの受け手の生活を想定することができる。
- ◆在宅療養を見据えたケアの受け手の生活を支える社会資源・他機関・多職種について理解することができる。

今回の研修には定員80名を大きくオーバーして105名が参加し、開催されました。

まず、中村先生より行政の立場より、膨大な資料（データー）を参考にしながら、国および滋賀県の動向、地域包括ケアシステムの概要について具体的でより身近な例をあげながら説明を受けました。それを踏まえて、医療圏域ごとのグループで、『これからどうなる？ わたしの地域』を話し合い、自分たちの地域の状況や強みや弱み、どんな問題を抱えているのかなど活発な意見交流が行われていました。

中村 恭子 先生

安井 明子 先生

午後からは　安井先生より訪問看護を通して、在宅療養の生活を想定したかかわりを具体的な事例を通して聴くことができました。がん末期Bさん（83歳）の事例について、自宅退院への問題や必要な情報、必要なサービスは何か？ など、身近なテーマで活発なグループワークが行われていました。

参加者から「“入院から退院までの流れ”の図がとてもわかりやすく、流れをイメージすることができた。」「滋賀県の現状等がよくわかり、今後自分がどのようにしていったらよいかわかった。」「具体的な言葉かけや対応など、勉強になった。」「退院支援は患者だけでなく家族の状況も含め家族と話す大切さを学んだ」との意見を聞くことができました。

3年目 看護職員交流会を開催しました

11月12日、22日、12月４日の３日間にわたり開催しました。卒後３年目の看護職員385名が参加して同期と交流しました。

午前はナラティブについて学び、忘れられない看護体験を語りあいました。午後は先輩看護師の話を聴き、今後の自己のキャリア形成を考える機会となりました。

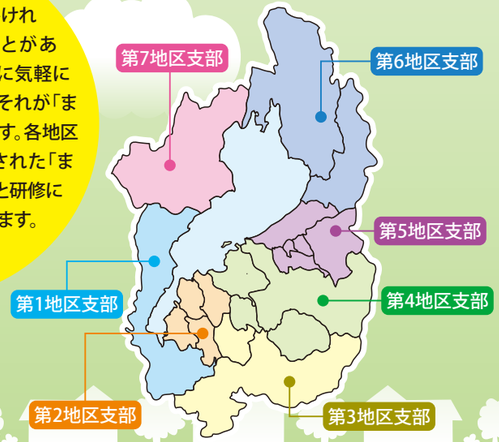
リフレッシュをして、前向きになることができる交流会でした。

グループワークをしました。

まちの保健室

一番星☆見つけた！

病院に行くほどではないけれど、ちょっと悩んでいることがある・・・。学校の保健室のように気軽に相談できる場所、それが「まちの保健室」です。各地区支部で開催された「まちの保健室」と研修について紹介します。



第1 地区支部

当地区支部では、10月20日、浜大津明日都で実施されました“おおつ健康フェスティバル”に今年度も参加しました。会場の一画に救急蘇生法とAEDの演習ができるブースを立ち上げ、訪れてくださった住民の方にICLSインストラクターおよびICLSアシスタントインストラクターによる説明と実技指導を行いました。成人の方法だけでなく、小児の指導も行ったこともあり、赤ちゃんや幼児のお子さん連れの方も多く、子供と共に楽しみながら学んでくださっていたことが印象的でした。また、「以前に学んだことはあるけど…」と言いながらも、繰り返し学ぶことの重要性を認識し参加してくださる方もおられ、当日は、101名の参加があり、とても賑やかに終えることができました。

同時に、看護職への進学に関する質問なども受けることもあり、住民の方々の看護に対する関心の高さを感じました。今後は看護師をさらに増やす取り組みとして、看護職への質問コーナーなども設けて看護のアピールができればと思います。

ブースのセッティングの様子

指導の様子

第2 地区支部

第２地区支部は10月26日に草津市で開催された玉川萩まつりに町の保健室として参加しました。今年度のテーマは感染防止。インフルエンザの流行期をむかえる時期でもあり、子供から大人まで参加できるように正しい手洗方法、マスクの装着、パネルを用いてインフルエンザのミニ知識、その他血圧測定、健康相談などを実施、約150名の市民の方の参加がありました。特に手洗い方法では、災害時に流水で手が洗えない場合の「手を拭く」という手指消毒の方法で体験をしていただき普段の拭き方の後、手洗いチェツカーを使用、汚れが残っていることを確認してもらいました。親子で参加したお母さんが子供に「すごいよね、ばい菌がいっぱい、しっかり手を洗ってね」と声をかける姿が印象的でした。その後の、手洗い方法のミニ講義も好評で多数の方に参加いただきました。

また、マスクの装着で、正しい装着はわかるが「もったいない、捨てられない」と使用済みのディスポマスクについて再使用を語る女性など、感染予防対策は非常に興味があるという市民の意識を感じた時間でした。今後も市民の目線で内容を充実させ町の保健室の活動を行いたいと考えています。

第3 地区支部

甲賀圏域では、それぞれの重点事業に沿った研修会や講演会等の企画を８つ計画しており、現時点（11月中旬）ではそのうちの４つを終了致しました。

地域住民の方々にACPを理解して頂くための市民講座「もしもの時の話し合い」を開催したり、まちの保健室では、直接住民さん一人一人と接しながら会話を持ち、各種計測や健康相談を行いました。

骨密度測定95名、耳年齢測定83名、健康相談15名と多くの地域住民の方々に来て頂き、とても参考になったとお声を頂きました。

残る４つの計画は、重点２の安心して働き続けられる職場環境作りの推進での研修会や重点３の地域包括ケアを支える看護の機能強化のための地域フォーラム等があり、甲賀圏域の看護職全員で力を合わせて行っていきます。

地域住民と「もしバナゲーム」をしている所

「まちの保健室」の風景

第4 地区支部

第４地区支部では10月５日㈯「認知症看護とせん妄について」、10月13日㈰「東近江圏域看護職ネット研修会」を開催しました。

認知症看護研修は、近江八幡市立総合医療センターにて近江温泉病院認知症看護認定看護師の名賀石志保先生を講師に迎え、認知症とせん妄の違いを中心にせん妄の因子と予防の為のケアなどの講義と、事例シートを使用してアセスメントとケアについてグループワークを行いました。事例のまとめでは、せん妄症状が出現した時の対応や接し方、せん妄経過に沿ったケアを具体的に話され個別的な患者のケアを考える事が出来る内容でした。

看護職ネット研修会は、東近江総合医療センターにて「医療的ケアが必要な子供の在宅医療の現状を知り、看護職の役割を考えよう」をテーマに、くまだキッズファミリークリニック院長の熊田知浩氏の講演、小児慢性特定疾患時の現状報告、在宅支援の事例検討発表をされました。グループワークでは、事例検討で発表された小児患者に対し「在宅療養を支援するため、医療的・生活の視点から看護職の役割を考える」を議題に6グループに分かれ活発な意見交換が行われました。

研修グループワーク

認知症研修

第5 地区支部

第５地区支部では、地域包括ケアを支える看護の機能強化の取り組みの一環として、９月７日㈯ ビバシティ平和堂主催の「美と健康フェア」で「まちの保健室」ブースを開設しました。役員・協力者10名が血圧測定・血糖測定・ストレスチェック・健康相談を行い、地域の方々と触れ合いました。ビバシティ平和堂へ買い物に来られた家族連れが立ち寄られるなど、延べ347名の参加がありました。血圧測定に緊張する小学生、初めて血糖測定体験をされた方、ストレスチェックに興味を持ち家族で参加された方もおられました。

今回の「まちの保健室」では、疾病を持ち通院治療されている方だけでなく、普段健康をあまり意識しない多くの若い世代へのアプローチができ、健康への関心を高めていただくきっかけづくりになりました。また、三世代やご夫婦で参加され、お互いの健康に気遣われるなど家族のコミュニケーションの場になっている場面も見受けられました。

地域住民の健康増進や疾病予防等の一助となった活動であると共に、「看護職」を身近に感じていただける機会にもなったのではないでしょうか。

第6 地区支部

長浜市と京都大学大学院医学研究科が行う「０次予防健康づくり推進事業」の取り組みをきっかけに、「心と体の健康づくり」の運動の輪を広げる活動『いきいき健康フェスティバル2019』が長浜バイオ大学にて開催されました。第６地区支部では、まちの保健室として、ブースに出展し、手洗いチエッカーを使用し正しい手洗いの指導と、正しいマスクの着用についてポスターを使って説明を行いました。

ブースへの参加者は365人と多く、特に子供たちは興味を持って参加され、「丁寧に洗っているつもりだが、なかなか汚れが落ちていないことがよくわかる」「子供たちは毎年ここで手洗いをすることに決めている。きれいになるまで何度も洗っている」毎年楽しみに来られる方もあり大変盛況でした。

市民向けの出前講座は、今年度は、心不全看護認定看護師から、冬の生活考えようと題して、血圧測定やリハビリ体操を取り入れながら、生活上の注意点をお話しいただきました。大変真剣に話を聞いてくださり、終了後の質問コーナーでは多くの質問があり、市民の健康づくりに対する関心の高さを実感しました。今後も少しでも多くの市民へ健康づくりの情報発信をしていきたいと思います。

第7 地区支部

第７地区は、小児から高齢者まであらゆる人々に対応した地域包括ケアシステムの推進と、診療所や施設で働く看護職との連携強化に取り組んでいます。

《活動内容》

●新人リフレッシュ研修

９月６日：高島市民病院において新人看護師14名が参加し「糖尿病の基礎知識」をテーマに知識を学び、交流を深めました。

●湖西圏域看護ネット会議

８月：診療所や施設で働く看護職を対象に79施設にアンケート調査を行い、医療・介護連携の現状と意識調査を行いました。特に施設看護職は、研修会の参加意向が78%と高く、介護の現場における最新の医療情報を学びたいという声が聴かれました。今後「肺炎の観察ポイント」をテーマに交流研修会の開催を予定しており、顔の見える関係づくりをさらに進め地域の看護力の向上につなげたいと考えています。

新人リフレッシュ研修

第24回 滋賀県看護学会

その人らしさを支える看護のちから

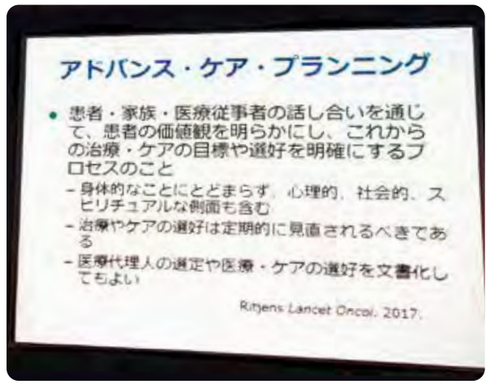
～心ゆたかに、元気に、淡海から～ を終えて

看護学会委員長 済生会滋賀県病院 木村 里美

令和元年度第24回滋賀県看護学会を、去る12月5日㈭にピアザ淡海滋賀県立県民交流センターで開催いたしました。

午前中は研究報告12題、実践報告6題を3会場で、示説6題を1会場に分かれて発表を行いました。午後からの基調講演・シンポジウムはピアザホールで行い、専門職や一般市民の方々を合わせ延べ377名の方にご参加いただきました。

午前は昨年と同様に研究、実践報告終了後、その群の報告内容に沿った交流会を行いました。座長の皆様や参加者のご協力によって職能や領域を超え、テーマにあるように「その人らしさを支える看護」について語り合える場になったと思います。



午後は、一般市民含めた公開講座を企画し、神戸大学医学部附属病院緩和支持治療科の木澤義之先生をお招きし「アドバンス・ケア・プランニング～いのちの終わりについて話し合いを始める～」をご講演頂きました。事例や先生ご自身の体験から、ACPの本質は患者の価値観を対話によって明らかにし、これからの治療やケアに生かすプロセスであることをご教授頂きました。あくまでご本人の意向を尊重することが重要であるのだということは、私たちの現場を改めて見直す必要があることを痛感させられるものでした。

シンポジウムでは、滋賀県内のそれぞれの場所でACPの実践にご尽力いただいている3名のシンポジストにご発言いただきました。急性期病院の医師、訪問看護師、施設内の看護師の立場から、場所や領域に合わせた先駆的な実践内容を報告いただきました。その後にはコメンテーターの木澤先生にもご参加いただき、ACPの具体について議論ができたと思います。

今年度のテーマは「その人らしさを支える看護のちから ～心ゆたかに、元気に、淡海から～」でした。健康寿命が全国的に上位である滋賀県で、今後増々看護の力を集結し、県民一人一人が輝く健やかな滋賀の実現に寄与したいと思います。多くの方に参加していただきありがとうございました。来年もより多くの演題応募、ならびにご参加をお待ちしています。

Voice ―― これからの看護職に期待すること

小児血液悪性腫瘍患者会 レイクファミリー

私たちレイクファミリーは小児血液腫瘍グループの患者会です。

2012年に医師、看護師の皆様が「辛い治療を頑張った子どもたちへのご褒美に」と企画してくれたキャンプがきっかけで発足しました。現在は患者会主催でキャンプなどを開催し、家族で交流を図っています。看護師の皆様も毎年参加くださり、子どもたちと共に笑顔溢れる活動にご協力頂いております。

この活動は入院中からの信頼関係によって成り立っています。入院中は不安や恐怖、孤独感でいっぱいでしたが、それを少しでも和らげようと、子どもたちだけでなく親の気持ちにも寄り添い支えてくださいました。辛い時を知っていてくれるその存在は今でも大きく、キャンプ等で出会えば近況報告し合い、ゆっくり話せることを子どもや親も楽しみに集います。

入院経験のある子たちは、その優しさに触れる機会が多いので、入院がきっかけで看護師を夢見る子たちが多くいます。優しさが優しさを生みます。命に関わる仕事は本当に大変だと思いますが、その努力や優しさに救われる人がたくさんいます。どうかこれからも、子どもたちに寄り添い、何でも話せる存在であって欲しいと願います。きっと子どもたちから倍のパワーと笑顔をお返しできると思います。

委員会 活動報告

災害看護推進委員会

委員長　川森 百合子

今年度は、災害支援ナース育成に向けた災害看護基礎研修・実務研修の企画・運営に加え、地震だけでない災害が多発するなか、幅広く多くの会員の皆様に災害時の看護を考えていただく、また、管理者を対象に、患者・家族はもとより職員の安全を考え、自施設の体制・マニュアル等を見直していただく機会として研修企画をしています。

防災の日9月1日には、滋賀県高島市で開催された滋賀県総合防災訓練の防災展示ブースにて災害支援ナースの活動についてPRを行いました。訓練来場者の中に災害支援ナースに登録されている方の姿もあり大変嬉しく感じました。この防災訓練参加を通じて、さらに防災対策・備えに対する知識と理解を深めることができました。

滋賀県には多くの活断層が存在し、特に琵琶湖西岸断層帯については今後30年間に地震が発生する確立が高いとされています。地震はいつ起こるかわからず、日頃からの防災への備えが大切です。災害支援マニュアル等の改訂や災害支援のための備品の整備と点検を行い、各防災機関（県・市）、地区支部の皆様との連携をはかりながら地域の防災対策に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

滋賀県総合防災訓練 展示ブース

災害支援ナースをPR

職能委員会 活動報告

助産師職能委員会

委員長　溝口 浩子

みなさんこんにちは！

今年度より4人の新しい委員と共に、8人で助産師職能委員として活動しています。

日本の少子高齢化は変わりませんが、世界中も人口減少であり、今から100年は人口減少は変わらないと聞きました。少子化であっても、私たち助産師のすべき仕事は変わりません。生まれてくる大切な命を、また次の世代に繋げていくという大事な役目を担っています。日本看護協会の看護の将来ビジョンにも「健やかな妊娠・出産育児は健康な世代をつなぎ、次の時代を開いていく」とあります。そのために「妊娠・出産・育児の切れ目のない支援」を地域の関係機関と連携し取り組んでいます。助産師職能では、妊産婦さんへの質の高い看護の提供の為に、研修会・助産師キャリアアップ事業・助産師出向支事業等に取り組んでいます。

滋賀県での出産場所は6割が診療所での分娩です。その為診療所の助産師さんの力を看護協会に是非反映させて頂きたいと思っています。滋賀県助産師の看護協会入会率は55%であり全国的に低い状況であり、今年度職能委員会では、協会員増員に向けてのアンケートに取り組んでいます。御協力宜しくお願い致します。

医療安全通信

医療安全推進委員会 vol.37

インシデント レベル0報告がなぜ必要？

報告がシステムを変えた事例の紹介

❶A病棟から、検査のために絶食している患者さんに配膳しそうになったけど、ベッドサイドの絶食カードに気づいて配膳せずにすみましたという0報告がありました。

❷とてもよい取り組みをされていると思います。皆さんの部署ではどのようにしていますか？

❸気をつけてはいますが、そのような対策はできていません。病院全体で取り組んではどうでしょうか？

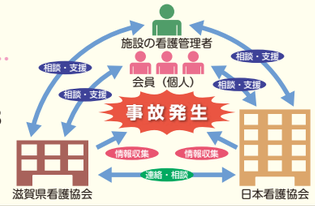
❹そうすることで、新人看護師や部署異動の人も安心して業務ができますね。これからもレベル0報告を共有して、院内で取り組みができるといいですね。

インシデント レベル0報告が提出されたことで、A病棟のみの問題ではなく、委員会などを通して共有でき、院内システムの組織的な改善が可能となりました。このように、インシデントの現状や傾向を報告し周知することで、医療安全に対する意識が高まり、事故を未然に防げるようになります。

あなたの報告が安全管理機能の向上につながります！

医療安全相談窓口

- ●受付時間：９時30分～16時（平日のみ）
- ●場　　所：滋賀県看護研修センター内 TEL.077-564-6468 / FAX.077-562-8998
- ●担　　当：看護協会長・常務理事・医療安全推進委員（適宜）
- ●方　　法：電話相談・来訪相談・FAX相談



訪問看護支援センターだより

● 多様な利用者への訪問の充実に向けた助言指導事業 ●

子どもと家族を支える訪問看護 小児・障害児

目指すのは、子どもの健やかな成長と家族との豊かな暮らし

医療構造改革の進む中で、医療依存度の高い小児が在宅療養する事が多くなっており、小児への訪問看護の充実を図ることが求められています。

《同行訪問事業を通して学んだ訪問看護師の感想等》

- ●呼吸器をつけた子どもと生活するってこういうことなんだと肌で感じた。
- ●今回のような座学＋同行訪問は、継続してほしい。
- ●特に不安に感じるのは、急変時の対応や小児特有の異常の早期発見の方法であり、そのあたりの講義が、今回の研修参加により、大きく不安が解消されたと感じた。
- ●同行訪問は、とても学ぶ機会が多いと感じた。継続していくことにより、小児訪問看護を行えるステーションが増えることが期待できると感じる。

訪問看護支援センターでは、小児に携わる訪問看護師が専門的な知識や技術を身に着け、安心し自信をもって訪問できるよう、支援をしています。

この事業は、専門的な実践力の高い「訪問看護ステーション ちょこれーと。」の協力を得て実施しています。

▶電話・メール相談

小児・障害児への訪問看護に関する疑問や困難が生じた場合に、電話およびメールなどにて助言を受けます。

▶あなたのステーションでの同行訪問とアドバイス

小児・障害児への訪問看護を学びたい看護師の所属する訪問看護ステーションに、小児・障害児の訪問に熟練した看護師（指導者）が出向き、現地で小児・障害児への訪問看護の実際を指導する機会を設け、対応を学ぶ機会を設けます。

看護実践力を高め、子どもの成長を共に喜び、地域での暮らしを豊かに支えましょう。お気軽に、**訪問看護支援センター（077-564-6708）**までお問い合わせください。

次年度も小児訪問看護の研修会を実施予定ですので、ぜひご参加ください。

ナースセンターだより

受講生の声 Vol.6

ブランクはハンデではなくチャンスです!!

Y.N さん

私は総合病院の産婦人科病棟で勤務し、結婚を機に退職しました。4人の子どもを出産し、子育てに奮闘する日々を送っていましたが、予防接種や風邪で子どもを病院に連れて行く度に私もいつかは復職したいという気持ちがどこかにありました。

1番下の子どもが1歳を迎える少し前、今回のリスタートナースサポート研修を見つけました。受講する際、子どもを託児所に預けたり、幼稚園の送り迎えも大変でしたが、講義･実践とも新鮮であり、また仕事をしていた頃の記憶も蘇り、楽しく取り組むことが出来ました。また、今回の研修を通じて同じ思いの仲間にも出会え、お互いを励まし合いながら進める事で、ブランクが10年あり不安で一杯だった自分も、周りからの刺激を受け再就職に対する意欲が前向きにかわりました。

育児や幼稚園の送り迎え、習い事の送迎等があるため、出来るだけ子ども達に負担をかけないようにと考えると限られた時間での復職希望でしたが、希望に合うクリニックに出会う事が出来ました。今まで勤務していた内容とは違うので戸惑う事ばかりですが、新たな気持ちで勉強している毎日です。

働く事で、子育てとは離れ気持ちを切り替えられるように思います。家族の為にと思う事も大切ですが、私が私の気持ちを大事にする事も家族の為にもなるのだと今は思います。

ブランクはハンデではなくチャンス、出来ないかもしれないと不安に思うのではなく、まずはやってみないと分からないと一歩前に進む事も大切だし、新たな出逢い、違う世界がみられるのだと思います。今は家族の協力に支えられながら、生活にもメリハリが出て、毎日が忙しいですが充実した日々を過ごしています。少しでも早く慣れていけるようにこれからも頑張っていきます。

開催します

2月19日㈬
13:00～15:30
クサツエストピアホテル（草津駅より徒歩5分）

参加無料
託児無料
入退場自由

滋賀県内の求人施設から就職の説明や面接が受けられます。保健師・助産師・看護師・准看護師の資格をお持ちの方、看護学生の方で、就職をお考えの方は是非ご参加ください。

■お仕事相談コーナー（訪問看護・介護福祉・看護の仕事）
■ワンポイントメイクコーナー

リスタートナースサポート研修

2回目の様子

第３回目は**看護研修センター（草津市）で、1月15日㈬から開催**します。

※詳しくはホームページをご覧ください。

WLB推進研修会

看護管理者・事務長等多数の参加を!!

①講演「働き方改革における
　タスクシフティングシェアリング」
②WLB取り組み２施設発表
③労働環境改善委員会報告

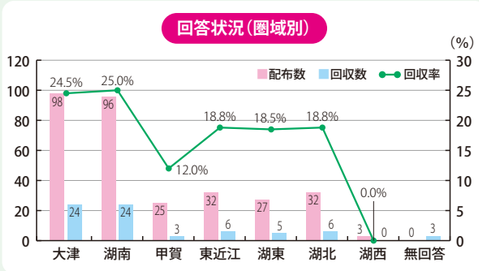
2月13日㈭ 13:20～16:30
会場：**看護研修センター**

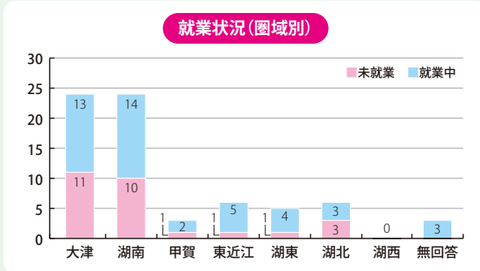
SHIGA! はたさぽ通信

就業コーディネーター｜乾 悦子

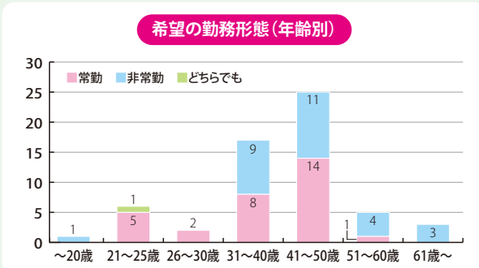
昨年、訪問看護ステーション、介護福祉施設、医療施設のみなさまには、リスタートナースサポート研修の実習受け入れにご協力いただきありがとうございました。多くの受講生の再就職につながり大変うれしく思います。病院訪問では、看護管理者のみなさまから貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

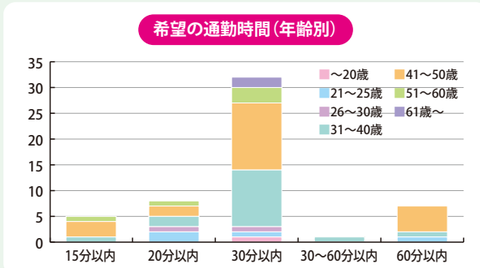
求職者に各施設の看護の魅力をお伝えし、再就職にむけて支援させていただきます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。今回は、昨年実施した「再就職についての意向調査」の結果をお知らせします。2018年８月１日～2019年７月31日までのｅ-ナースセンター新規登録者314名のうち71名から回答が得られました。圏域別回答状況と就業状況はご覧のとおりです。



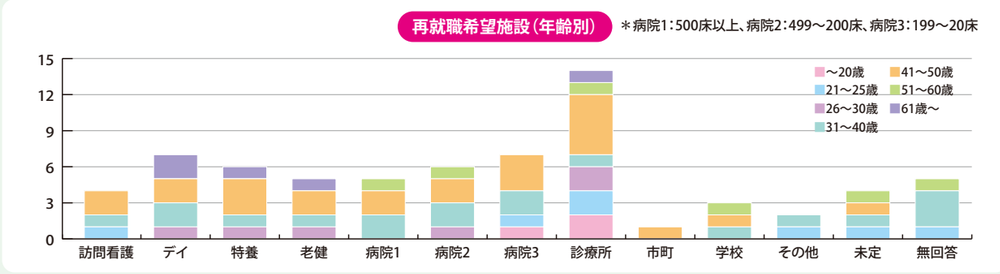


回答者の希望条件（勤務形態、通勤時間）については、ご覧のとおりです。





再就職時に、21～30歳は常勤、31歳以上は非常勤の希望が多く、通勤時間は30分以内を希望する人が最も多いです。給与額は、時給1500円以上、月給20万円以上を希望する人が多いです。再就職希望施設は、訪問看護、介護福祉、病院、診療所等選択肢の多様性が伺えました。



再就職に期待する支援は、【１位】看護業務の段階的な支援、【２位】看護の知識や技術研修、【３位】スタッフからの声かけ、【４位】院内保育所の設置（大津圏域、21～25歳・41～50歳の希望者が多い）という結果でした。

お問合せ先
●滋賀県ナースセンター TEL.077-564-9494 ／ FAX.077-562-8998
●彦根サテライト TEL.0749-30-1235 ／ FAX.0749-30-1233
●E-mail：shiga@nurse-center.net

詳細はホームページをご覧ください